

第52号議案

南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について

別紙のとおり、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者を決定する。

平成27年2月17日提出

教育長 林 雅 則

提 案 理 由

南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者を決定したいので、この案を提出する。

## 第6回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者について

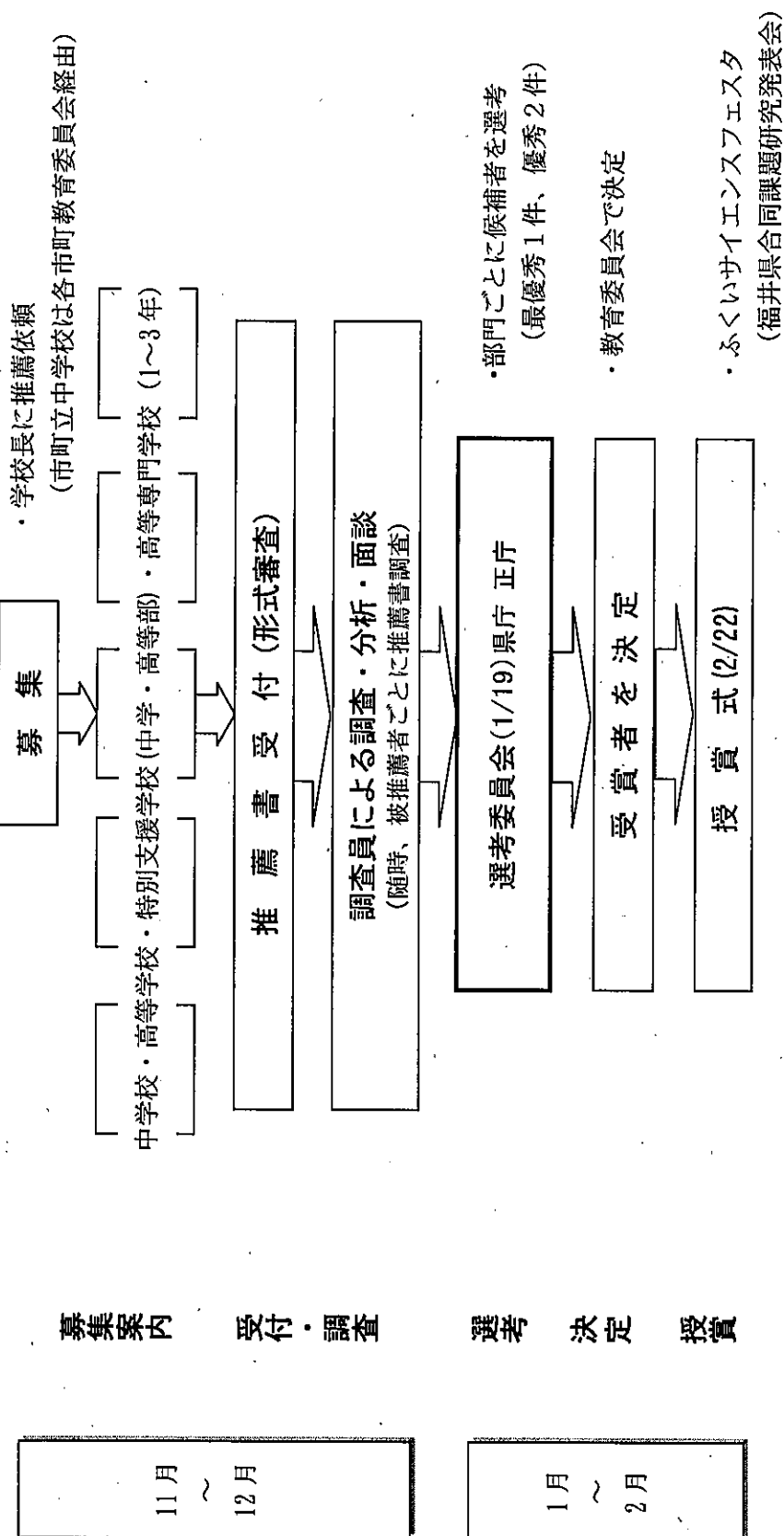
### 【中学生部門】

| 賞名   | 推薦種別 | 所属校氏名                         | 学年 | 受賞理由                                                                                                                                                                                   |                                                          |
|------|------|-------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
|      |      |                               |    | 研究テーマ等                                                                                                                                                                                 | 研究発表・コンテスト等での成績                                          |
| 最優秀賞 | 個人   | 鯖江市東陽中学校<br>酒井 智永             | 1  | 「続クロサツツミズムシの研究」<br>姉の研究を引き継ぎ、クロサツツミズムシの研究を始めた。生息場所の観察に加え、自作の飼育容器で飼育を行い、卵の形・色・大きさ・産卵時期、幼虫の形態等、卵から成虫までの生活史を明らかにした。年間を通した継続的な研究であり、大変貴重な研究である。                                            | 第58回日本学生科学賞福井県審査知事賞(H26)<br>第58回日本学生科学賞中央審査優秀賞(H26)      |
| 優秀賞  | 個人   | 福井大学教育地域科学部<br>附属中学校<br>西澤 隼生 | 2  | 「絶滅に瀕する野鳥の生態を探る<br>コシアカツバメ part.2」<br>継続研究の2年目であり、研究内容を深めている。絶滅に瀕する種コシアカツバメをイワツバメとの棲み分け調査などを通して生息状況を探り、減少の理由を考察した。数だけの記録でなく、巣のあった位置や壁面の材質、天井の形状など、工夫してまとめている。福井県全域を調査している点は特筆すべきことである。 | 第58回日本学生科学賞福井県審査県教育委員会賞(H26)<br>第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26) |
| 優秀賞  | 個人   | 坂井市立三国中学校<br>木部 由布佳           | 3  | 「どろどろ<br>～三国の丘のふもとに暮らして～」<br>近所の神社の木が伐採され急な斜面が露出したことから、崖崩れの危険を感じ研究のテーマとした。近所の4種類の砂の保水量と粒の大きさなどを比較し崩れる角度を自作実験装置を使って研究した。また、木の根に見立てた糸を混ぜ、糸の量との関係を検証した。発想が豊かで独創的な取組が見られる研究である。            | 2014福井県小・中学生科学アカデミー賞最優秀賞(H26)                            |

### 【高校生部門】

| 賞名   | 推薦種別 | 所属校氏名                                                                      | 学年 | 受賞理由                                                                                                                                                                                       |                                                                                     |
|------|------|----------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|      |      |                                                                            |    | 研究テーマ等                                                                                                                                                                                     | 研究発表・コンテスト等での成績                                                                     |
| 最優秀賞 | 個人   | 福井県立科学技術高等学校<br>浅川 英慶                                                      | 3  | 「共振変圧器による無線電力送電」<br>テスラコイルの放電の画像を見つけたことから興味をもち、研究を始めた。入手した回路図を理解し、更に改良を加えて安定した出力を得られる回路を完成させた。簡易電力計を自作して無線送電効率の測定を行うなど、研究全般にわたって自分で計画・作製・測定・まとめを行っている。大学でも、装置の小型化など研究を継続していく意欲が強い。         | 第58回日本学生科学賞福井県審査最優秀賞(H26)                                                           |
| 優秀賞  | グループ | 福井県立丸岡高等学校<br>野坂 良輔<br>山本 雅也<br>玉川 晴子                                      | 2  | 「夕日の研究」<br>夕日を撮影したときに、丸岡城天守閣と太陽が重なった偶然から、太陽の見かけの大きさや色に興味をもち研究を始めた。日没をとらえるチャンスが少ない中粘り強く観察し、次々と浮かび上がる疑問に対して物理的に検証し、動画編集および図形編集ソフトウェアを用いて、観測者の感覚に頼らず定量的にまとめられている。得られた知見を生徒に公表し、広報活動にも力を注いでいる。 | 第58回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H26)<br>第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26)                                |
| 優秀賞  | グループ | 福井県立鯖江高等学校<br>伊藤 康烈<br>前田 卓介<br>栗林 和輝<br>北野 ひかる<br>加藤 麻衣<br>前田 記里<br>小林 凌雅 | 2  | 「スカシカシパンの潜行行動の解析」<br>スカシカシパンが砂に潜る「潜行行動」を、すかし孔と辺縁部がかきあげる「砂量」を比較することで、定量的に分析・考察を行っている。「砂量」を精密に測定するために自作のサイフォン装置を考案し、観察データを蓄積し、詳細に考察している。独創的な手法で新しい事実を発見したことは、日本動物学会中部支部研究発表会でも高い評価を得ている。     | 第58回日本学生科学賞福井県審査優秀賞(H26)<br>第58回日本学生科学賞中央審査入選3等(H26)<br>日本動物学会中部支部大会<br>大会委員長賞(H26) |

# 第6回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞 手続き等の流れ



第6回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞選考委員会 委員名簿

| 氏 | 名       | 役 職 等                              |
|---|---------|------------------------------------|
| 1 | 伊 佐 公 男 | 仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授             |
| 2 | 伊 禮 三 之 | 福井大学 教育地域科学部 理数教育講座 教授             |
| 3 | 宇多川 隆   | 福井県立大学 副学長（生物資源学部 教授）              |
| 4 | 小 島 敏 弘 | 福井県中学校教育研究会理科部会 部会長<br>（福井市殿下中学校長） |
| 5 | 小 木 一 良 | 福井県中学校教育研究会数学部会 部会長<br>（福井市光陽中学校長） |
| 6 | 平 松 正 尚 | 福井県高等学校教育研究会理科部会 部会長<br>（若狭高等学校長）  |
| 7 | 杉 田 宏 憲 | 福井県高等学校教育研究会数学部会 部会長<br>（敦賀高等学校長）  |
| 8 | 三田村 彰   | 福井県教育庁 企画幹（学校教育）                   |

# 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞要綱

## (目的)

第1条 この要綱は、南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞（以下「賞」という。）の授賞に関し必要な事項を定める。

## (賞の区分および種類)

第2条 賞の区分および種類は、原則として次のとおりとする。

### (1) 中学生部門

ア 最優秀賞 1

イ 優秀賞 2

### (2) 高校生部門

ア 最優秀賞 1

イ 優秀賞 2

## (対象者)

第3条 授賞は、県内の中学校、高等学校、特別支援学校（中学部または高等部に限る。）または高等専門学校（1学年から3学年までに限る。）に在籍する者（当該在籍する者で構成するグループを含む。）であって、次の各号のいずれかに該当するものに対して行う。

(1) 理科、数学およびこれらに関連した分野に係る研究発表またはコンテスト等で優秀な成績を収めたもの

(2) 理科、数学およびこれらに関連した分野に係る調査、研究活動等を自主的または継続的に行い、その活動等に成果および努力が認められるもの

## (対象者の推薦)

第4条 県教育長は、県内の中学校、高等学校、特別支援学校および高等専門学校の学校長に対し、対象者の推薦を依頼する。ただし、県内の市町立中学校の学校長にあつては、各市町教育委員会を経由して依頼する。

## (選考、決定等)

第5条 受賞者の決定は、次に定める方法により行う。

(1) 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞選考委員会（以下「委員会」という。）を組織し、委員会において前条の対象者の中から候補者を選考する。

(2) 県教育委員会は、委員会が選考した候補者の中から受賞者を決定する。

2 委員会は、8人以内の選考委員で構成する。

3 選考委員は、学識経験者、学校関係者および教育行政関係者等のうちから、県教育委員会が委嘱し、または命ずる。

4 選考委員の任期は、委嘱または任命の日から当該委嘱または任命の日の属する年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

5 委員会に委員長を置き、選考委員の互選によってこれを定める。

6 委員長は、委員会の会務を総理する。

## (授賞の方法)

第6条 受賞者には、賞状および副賞を贈呈する。

## (授賞の時期)

第7条 授賞候補者の選考は毎年行う。また、受賞者を決定した場合には、適切な時期に授賞を行う。

## (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成21年10月20日から施行する。

## 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞候補者 選考基準

### (基本事項)

- 1 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞授賞候補者（以下「候補者」という。）の選考は、授賞要綱および授賞要領に定めるもののほか、この選考基準の定めるところによる。

### (評価項目および要素)

- 2 選考委員は、授賞対象者について、次の評価項目および要素に着目して、評価を行うものとする。

- (1) 研究発表またはコンテスト等（以下「コンテスト等」という。）の成績については、次の要素に着目し評価を行う。

- ・趣 旨 知識のみでなく問題解決能力・課題探求能力等を評価するものであるか。（各種作業等の実技の習熟のみを競うものは不可）
- ・規 模 全国または福井県内に広く募集が行われているか。
- ・参加者数 認知度が高く、多くの生徒が参加しているか。
- ・成 績 受賞ランクが高く、選考の過程で高い評価を得ているか。

- (2) 調査・研究活動（コンテスト等での成果発表・レポート・解答等を含む）については次の要素に着目し評価を行う。

- ・計 画 性 動機が明確で、問題点をはっきりとらえ、計画的に調査、研究活動等が遂行されているか。
- ・論 理 性 観察、実験等から得られたデータをもとに、結論が論理的に導き出されているか。
- ・独 創 性 自ら考え、工夫を凝らした取組みとなっているか。
- ・主 体 性 自発的または自主的に、意欲を持って取り組んでいるか。
- ・発 展 性 研究成果をもとに新たな理論、仮説等をたて、今後の研究につながるものとなっているか。

### (評点)

- 3 選考委員は、授賞対象者について、前項の評価項目および要素に着目し、次の表により評点を付す。また、その他特記すべき事項があれば特記事項欄に記載する。

| 評点区分 | 内 容     |
|------|---------|
| 5    | 特に優れている |
| 4    | 優れている   |
| 3    | 普通      |
| 2    | やや劣る    |
| 1    | 劣る      |

### (選考)

- 4 選考委員会は、前項による評点の合計点および特記事項を総合的に勘案し、合議の上で、授賞候補者を選考するものとする。

### (その他)

- 5 この選考基準に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。